

# 平成 30 年度の決算を審査

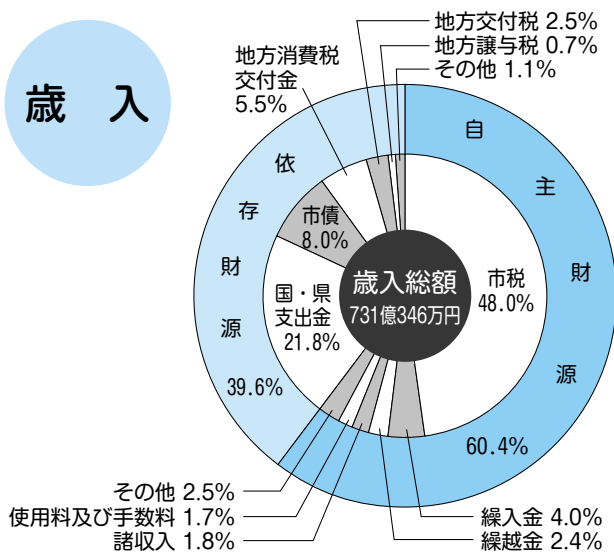
## 一般会計・特別会計・企業会計の

◆2～3ページの表は、1万円未満を四捨五入してあるため、差引額及び比較増減額が一致しない場合があります。

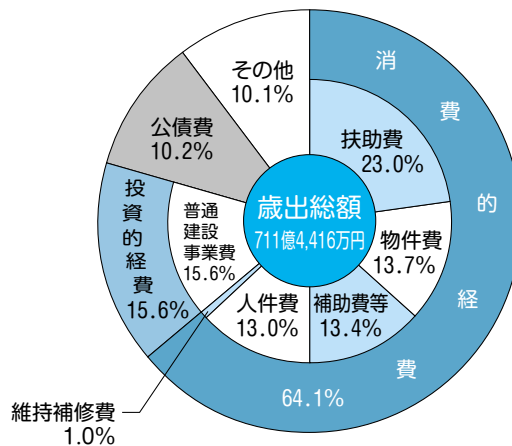
### 一般会計決算

	歳 入	歳 出	差 引 額
平成 30 年度決算額	731 億 346 万円	711 億 4,416 万円	19 億 5,929 万円
平成 29 年度決算額	711 億 3,873 万円	693 億 9,840 万円	17 億 4,033 万円
比較増減額	19 億 6,472 万円	17 億 4,576 万円	
増減率	2.8%	2.5%	

### 歳 入



### 歳 出



### 一般会計予算決算委員会での主な質疑

**問** ふるさと応援基金寄附金の実績と、寄附獲得のための取り組みは。

**答** 寄附件数は1万3,775件、寄附額は3億907万7,381円となり、平成29年度と比べ、寄附件数は4,284件の増、寄附額は7,547万8,911円の増となった。平成30年6月より、ふるさと納税専用ポータルサイト「さとふる」においても寄附金の受付を開始し、寄附金の受付を行うサイトの数をふやしたほか、本市出身の著名人をふるさと納税応援隊長として起用し、PR動画を作成するなど、広報活動に取り組んだ。

**問** 子ども医療費助成事業の実績と評価は。

**答** 平成30年度は、高校3

年生相当年齢までの子ども医療費の無料化を通年実施し、無料化の影響が4カ月分だった平成29年度と比べ、助成金の延べ支給件数は、3万7,917件増の36万6,717件、延べ支給額は、2億210万4,516円増の8億992万6,094円となった。本事業の実施により、子供の疾病の早期発見、早期治療の促進や保護者の経済的負担の軽減に大きく寄与したと認識している。

**問** 平成30年度に創設した奨学金返還支援事業に係る取り組みは。

**答** エントリー募集のための周知活動として、市内に向けては、広報ぬまづへの記事掲載や、定例記者会見での情報提供、地区センター等への

チラシの配架を行い、市外に向けては、日本学生支援機構のホームページに本制度の内容を掲載したほか、各種就職面接会でのPRや首都圏の大学等への訪問などを実施した。また、令和元年度の対象者の選定に向け、事前エントリーの受付を行い、大学生12人、短大生2人、専門学生4人の計18人から応募があった。

**問** スポーツ交流事業の推進の取り組みは。

**答** 本市として初めてフェンシング日本代表の強化合宿を開催し、日本のトップ選手35人のほか、コーチなど、総勢50人を受け入れた。

**問** 新たな公共交通の仕組み研究事業費の実績は。

**答** 新たな公共交通の仕組み研究会を開催し、わかりやすく使いやすい公共交通ネットワークの形成のための検討を行った。また、シンボル性の高い交通システムの導入に向けて、平成30年10月の1カ月間、9人乗りのEVバスによる実証実験を行った。

**問** 新貨物ターミナル用地取得に係る土地収用法第35条に基づく調査の実施内容は。

**答** 平成30年10月30日から4日間、県と市が共同で土地に立ち入り、約1万3,500平方メートルの用地測量及び農機具小屋5戸や立ち木などの物件調査を実施した。この調査や測量、補償金額の算定に要した委託料は5,085万7,200円であった。